

# と ネットワーク



△祭りのときは大変にぎわう毘沙門天



## 安全で活気あふれる 住みよいまち 元吉原

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。12月は浮島地区です。

連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。

元吉原地区は、風光明媚な松林が田子の浦港まで続く海浜地区です。地区の歴史は古く、古墳時代から奈良平安時代の集落址三新田遺跡や、中世には今井郷として現在の今井地域のあたりが記録に残されています。

明治二十二年、東海道線が開通すると、地区内に鈴川駅(吉原駅)がおかれ、以後吉原地域の玄関口として発展してきました。

また、景観は変わってしまいましたが、昭和三十六年に田子の浦港ができるまでは、吉原湊として名勝「逆さ富士」が心に残ったところでした。

地区は旧東海道と現国道一号線に沿って東西に長く集落が続き、東海道線と浜の間は、住宅と商店とが混在した住宅密集地域となっています。

地区内には田子の浦港石油基地、砂山の急傾斜地、海岸堤防のかさ上げなど防災の問題、また住宅密集地の生活環境の改善、松林、浮島沼の保全など解決しなければならぬ課題があります。



△写真左から完君、由紀子さん、亮さん、博さん、秀君、まさ子さん



## 剣道一家

柏原一丁目 高木さん一家



昭和五十五年に結成された「元吉原剣道スポーツ少年団」。団長の高木亮さん(四十六歳)の一家は、親子三代にわたる剣道一家です。今回はつわものぞろいの高木さん一家におじやましました。

高木さんのお宅で最初に剣道を始めたのは、おじいさんの博さん(七十六歳)。「始めたのは二十一歳のときで四段を取ったよ。昔は軍隊にいたからね」と、色つやのよい顔は年を感じさせません。

一時、体を悪くして今はやらなれないといいますが、ピンとした背筋は往年をうかがわせます。

そんな博さんの影響で、亮さんも学生時代から剣道を始めました。現在、七段。週に二回少年たちを指導し、そのほかの日に自分の練習を重ねます。やさしそうな目元も一たび防具をつけると厳しく、周囲からは「鬼の高木」と呼ばれているとか。「剣道は性格にぴたり。試合の緊張感がたまりません」と語ります。

また、亮さんの影響で剣道を始めた長男秀君(富士東高三年)は二段、次男完君(元吉原中三年)は初段と、まさにカエルの子はカエル。でも、二人は口をそろえて「お父さんにはかなわない」と言います。

おばあさんのまさ子さん(六十七歳)とお母さんの由紀子さん(四十一歳)は「親子で剣道について語り合う姿は、とても頼もしい」と目を細めます。親子三代で計十四段の高木さん一家は、剣道を通じた、かたいきずなどで、つけ入るすきがないと感じられました。